



地域活性化のこつを伝授する木村俊昭教授

地域活性化の
ヒントを学ぶ

北上で講演会

北上市の更木町振興協議会は24日、同市更木の更木地区交流センターで、東京農大の木村俊昭教授を講師に講

演会を開き、住民ら約120人が元気な地域づくりを考えた。

木村教授は北海道小樽市役所でまちおこしに手腕を発揮し、その後、内閣府や農水省でも地域活性化に携わった。講演は「みんなで、楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしましょう」と題して行った。

木村教授は地域活性化について「誰がどんな経験を持つか情報共有し、役割分担することが大切だ」「町内会活動は説得ではうまくいかない。みんなにデータを示し、理解してもらうことが必要だ」などと強調。

特産品の売り出しについて「歴史や文化を説明し、『ここに心を込めた』と言わなければ伝わらない。こだわりをどんどんPRすべきだ」と説いた。

達古袋小 ありがとう

一関14年の思い出永遠に

一関市萩荘の達古袋小(目時雄二校長、児童27人)の閉校式は24日、同校で行われた。児童や卒業生、地域住民らは141年の歴史を振り返りながら、地域の学びやへ別れを告げた。

約300人が出席。

あいさつで目時校長は、児童らに「達古袋小は地域に生まれ、共に歩んできた学校。こ

